



日本カトリック海外宣教者を支援する会

### 巻頭言

## 帰国した宣教女と「ジャブチカバ」

聖心侍女修道会 日高和子

日本からブラジルに到着してすぐ、サンパウロの道端で、ほぐされたブドウの実が空き缶一杯幾らで量り売りされているのを見た時、ブラジルは貧富の差が大きいと聞いていたので、この様に道端で粒がバラバラになったブドウの実だけを、安く量り売りにしているのかと思いました。

その後、ベロオリゾンテの知り合いの庭で、「ジャブチカバ」の木と実を実際に見た時の驚きは、今もよく覚えています。ブドウの実の様なものが、木の幹や枝にびっしりくっ付いているのです。これが私と「ジャブチカバ」の初めての出会いでした。

ブドウにそっくりの実が、一粒ずつ幹にくっ付いている様子は異様な感じです。一つ取って食べてみると、中は白くねっとりとした果肉が種の周りに付いていて、甘く、わずかに酸味はありますが、ブドウとは全く異なる味でした。初めてサンパウロの道端で見たあの果物は、「ジャブチカバ」の実だったのです。木の幹や枝から直接取って食べる「ジャブチカバ」の実はとても美味しく、楽しくもあり、その素朴な木の存在に、私は「ジャブチカバ」が大好きになりました。

### ♡♡もくじ♡♡

巻頭言	1
第68回運営委員会議事録	3
宣教者からのお便り	4
こんにちは!お久しぶりです	10
ザ・メッセージ	10
新入会員・事務局より	12



日本に帰国する2年くらい前に、私の「ジャブチカバ」好きを知っている人が、その苗木を当時、私が働いていた児童センターに届けてくれました。ところが、丁度その場に居合わせたお掃除のセニョーラが、羨やましそうにしていたので、彼女を喜ばせるために、“私の代わりに育てる”という条件付きで彼女にあげることにしたのです。「ジャブチカバ」は、庶民の誰もが庭に一つは欲しい木だと思います。

一昨年の5月に、私はどうしても解決しなければならない用があってブラジルに行くことになりました。彼女の家の庭の何本かのマンゴーの木の間に、結構大きくなった「ジャブチカバ」を見つけました。子どもたちによると、この「ジャブチカバ」は“カズゴ”と呼ばれているそうです。母親が私の名前を付けていたのです。

私たちにとって、聖心侍女会が31年間過ごしたブラジルから全員引き揚げるのは、とても寂しい事でした。特に貧しくても心豊かな人々との別離は、お互いにとって辛い事でした。私たちは、それまでの生活や活動を通して接した人々の思い出の中に、私たちが生きていること、祈りで繋がっていることを信じていますが、何時かそれも人々の間から忘れ去られてしまうだろう事も知っています。

それが宣教に赴いて帰国した人たちの現実で、私はそれでよいのだと思っています。それでも、私たちが関わった人たちの中の一人、貧しく定職もなく女手一つで苦勞して3人の子供を育てていた女性が、私たちのセンターで働く事により、夜学に通い、働く女性として目覚め、自立の道を歩むことが出来て生活の安定が得られた事は、私たちにとって大きな喜びでした。そして彼女の庭に、私の名前がついた「ジャブチカバ」が存在するという事は、貧しい人々を愛し、彼らと連帯して苦樂を共にしたシスターたちが居たという証として、他の人たちに語り



り継がれるかもしれないと思うと、神さまの摂理、細やかな愛を感じます。この「ジャブチカバ“カズゴ”



が、この実を食べる全ての人に楽しみと喜びを与え、人々に愛され続けますように。全てを神に感謝！

## □■□ 第 68 回運営委員会議事録 □■□

日 時：2018 年 3 月 10 日（土） 15:00~17:00

場 所：六本木・ヨゼフ修道院 2 階会議室

### 議 事

#### I. 「きずな」142 号について

- 1) 巻頭言は通常、写真はなしでしたが、文字数が少なかったことと、25 周年記念の写真をたくさんいただいたので、今回は写真を掲載した。今後、文字数は 1600 字前後で依頼したい。
- 2) 責了間際に、故マヌエル加藤神父様の「追悼ミサ」と「メモリアルコンサート」のお知らせが届き、急遽レイアウトを変更して掲載した。
- 3) 文字の脱字が指摘された。6 ページの左下。
- 4) 記念号（150 号）はぜひカラー版で発行したい、との希望があった。

#### II. 「きずな」143 号について

巻頭言は Sr. 日高和子（聖心侍女修道会）に依頼することになった。

#### III. 援助申請の審議

- 1) チャドの Sr. 泉淑美（ショファイユの幼きイエズス修道会）より 2 件の申請があった。（宣教者のお便り P 4 参照）
  - ①地元の女性手芸グループが使用する材料（ひも、毛糸、木枠など）の購入費として 310 ユーロ（42,448 円）。
  - ②タグビアン修道院の近くに住む子供たちの就学援助、識字教室の教材費、青空教室のゴザやテーブルなどの設備費として 350 ユーロ（47,925 円）。検討の結果 2 件の援助を決定した。

#### IV. その他

##### 1) 「きずな」発送について

\* 国内便は 3 月 1 日 3,035 通を発送。

エスコラピアスのベトナム人志願者 2 名を含む 21 名のボランティアが参加。10 時から作業を開始して 11 時 15 分に終了。その後 12 時まで、Sr. 斎藤の「いかに楽しく生きるか」について講話があった。

\* 海外便等は、3 月 6 日海外便 156 通、大口 25 通発送。寄付でいただいた切手や葉書を「レターパック」等に交換し発送作業に役立てている。

##### 2) 海外宣教者名簿作成の件

名簿は 3 年に一度改訂し発行している。2018 年度は発行年のため、確認作業を開始する。

3) 2018年クリスマスカードについては早めに印刷会社と打ち合わせをする。

#### 4) パンフレットの刷新

当会の案内パンフレットは、当初大量に印刷したものを長らく使っている（訂正部分をその都度シール貼りして）。写真をはじめ内容も時流に合ったものに更新したい。コスト面から考え、発行部数などを決めたい（必要以上に作らず、リニューアルした方がコスト的に安い場合があるとの意見があった）。

#### 5) 本年「海外宣教者のお話を聞く会」について

東京教区 菊地 功大司教様をお願いすることになった。同時に144号（9月1日発行）の巻頭言もお引き受けくださった。

「お話を聞く会」

日時：10月27日（土）午後 四谷ニコラ・バレ ホールにて開催予定

#### 6) 人事について

\* 運営委員の Sr. 川俣恭子（礼拝会）は仕事の都合で運営委員会に出席できないため辞任したいとの申し出があり承認された。

\* 運営委員の友松真千代さんが運営委員、会員管理も少しずつ別の方に引き継ぎたい。

\* 新運営委員として後藤由美子さん（東京教区・成城教会所属）の推薦があり、承認された。

#### 7) 次回運営委員会は、2018年6月9日 15時～開催予定



## 宣教者からのお便り



チャド ◆ライ◆

### 地域の中に建てられたタグビアンの家

シヨファイユの幼きイエズス修道会 泉 淑 美

昨年の10月から、2人の姉妹と共に「タグビアンの家」に住んでいます。10年ほど前に修道会が建てたもので、ライの修道院から歩いて10分ほどの距離です。ライの修道院の建物が司教区のものであるのに対し、タグビアンは土地も建物も修道会のもの。ライの修道院はミッションカトリックの敷地内にあり、小教区

の建物と司教館の間にありますが、修道会がこの土地にしっかり根を下ろすために、あえて「ミッション」の土地から出て、地域のなかに建てたと聞いています。しかし、数年来シスターたちの数が少なくなり、住む人のないままになっていました。

私たちはできるだけチャドの人たちのように暮らしたいと、いろいろ試みています。近所の人たちからは好意的に迎えられ、子供たちは私達が門から出るたびに走ってきます。ここもライの町の中ですが、貧しい地域で、ライの町の数少ない中学校がここにもあるのですが、他の

地域から通ってくる生徒が多いです。この辺りでは、学校に行く子供でも小学校の4, 5年生でやめている子が多く、若い人たちもフランス語の会話はできても、読み書きはほとんどできないという状態です。まったく学校に行く機会のない子供もたくさんいるようです。川に近いので、漁で生計を立てる人が多いようです。

どのくらいの数の子供たちがいるのかわかりませんが、自分の限界を考えて、30人くらいまでなら何かできるかなと考えているところです。それ以上だと名前を覚えるのも不可能になりかねないし、あまり大きなことはできません。

毎年恒例のように、公務員の給料未払い、ストライキ、という事態が生じています。婦人たちの手芸のグループにも、十代の若いメンバーが増えています。先生たちのストライキが1か月以上続いているので、学校に行く代わりに私達のところに来て、何か新しいことを覚えたいのだそうです。

私達にできる小さいことを続けていだけでいいです。新しい取り組みにご支援いただけたら幸いです。よろしく願いいたします。



シエラレオネ ◆ルンサ◆

## 図書室でのマナーも教えて

御聖体の宣教クララ修道会 白幡和子

いつも私どものために、支援を続けてくださってありがとうございます。昨日、中高の図書室で写真を撮りましたのでお送りします。新しい場所でいままでの幼稚園とはまるで異なっていますが、やりがいがあります。

まず生徒たちが読んだ本をもとの場所に戻すことと、図書室では沈黙を守ることから教えています。お家に本箱がある生徒はまずないと思うので、少しずつですが慣れていくと思います。少し雨が降って枯れていた草が少し緑になり、春のようですが、気温は一番暑いときですので、フーフー言っています。

昨日から中学校と小学校と修道院の井戸が枯れてしまい、70人近い寮生たちは近くのお家にバケツを持って水をもらいに行きました。いっぱいバケツでお風呂と洗濯ですから、大変です。早く雨期に入ってたくさん雨が降るといいです。そうしないとおなかの悪い病気が絶

えません。ご復活なさったイエズスさまがすべての人に平和をもたらしてくださいように。

新しい大統領が決まって国民は大いに期待しています。まずは感謝を込めて。

ブラジル ◆サン ジェロニモ◆

## 「竹プロジェクト」

横浜教区 佐々木 治 夫

先日、4か月もかかってクリスマスのご挨拶と「きずな」を頂戴いたしました。ありがとうございました。ブラジルの政治、社会状態は最低となり、国民、特に貧しい人たちの背負う十字架が大きくなってきています。この貧しい地方の生活改善のために始めた「竹プロジェクト」ですが、1人の職員を募集しましたら、300名もの応募者が集まりびっくりしました。シスターたちも貧しい家庭の訪問を行っていますが、その貧しさに驚いています。このプロジェクトには州の援助も出るようで順調に進んでいます。貧しい人々への奉仕活動は、神様が必ず助けてくださいます。

「竹プロジェクト」は土地なし農民の農業組合へ渡しましたので、ご安心ください。私も年なのでプロジェクトを最後まで見ることはできないと思いますので。今は組合を助けることが私の仕事です。16年前、800家族が平均18ヘクタールの土地を獲得でき、一昨年立派な農業組合ができました。コーヒーだけを扱っていたのですが、霜の被害を考えると竹の部門も作ったわけです。組合員も1,000家族になり、元気に頑張っています。それで農業専門学校も組合に任せることにしました。

まだまだ仕事はいっぱいあるのに、体が昔のように言うことを聞いてくれません。近頃は「認知症」とまではいきませんが、物忘れが多くなり皆さんに笑われています。

東ティモール ◆ロスパロス◆

## 最後の東ティモール通信です！

JLMM (信徒宣教会) 深 堀 夢 衣

初めて東ティモールに到着したのは、2010年12月1日のこと。空港を出てすぐ感じた、むわっとした暑い熱気が今も忘れられません。あれから7年4か月。当時の私は23歳、人付き合いが苦手、泣き虫で、コンプレックスがたくさんあって、すぐイライラして、人に頼ってばかり。テトゥン語もわからない、でも、ティモール人の気持ちをわかりたいという気持ちはものすごくあって、その思いが7年間途切れなくてよかったなあと思います。



アジェさんと私 いつもふざけ合う仲でした

2013年2月に前任者が帰国し、日本人の派遣が1人になりました。同年4月には、頼りにしていた「AFMET」開始当初からのスタッフで、私のお父さんの存在だったアジェさんが急死。同年9月には「AFMET」の事務所兼住居が火災で焼失。持ち物も事業の資料も、これまでに日本から派遣された方々が残してきたものも、何もかもが無くなりました。

震える手で日本にいる母へ電話したのですが、「まあ燃えちゃったものはしょうがないわよ

～、全部無くなってゼロになって、やっとティモール人の暮らしがわかるじゃない！まだこれからよ！頑張れ～!!」。母が言ってくれたこの言葉を、私はきっと一生忘れないと思います。「帰って来なさい！」ではなく、「必要とされなくなるまでそっちで働きなさい」と、いつも背中を押してくれた母。本当はたくさん思うところがあったらうに、何も言わず、黙って私の進む道を支えてくれた父。家族の支えがあってこそ過ごせた東ティモール滞在でした。



私のことを「白いお姉さん」と呼ぶ子供たち

悪夢の2013年を越え、翌年からはAFMETの活動資金を探すために奔走しました。JLMMの研修を終えた2010年に派遣地を決める際、カンボジアか東ティモールか2つの選択肢がありました。東ティモールを選んだ理由の一つに、事業を考えて実施したいという思いがありました。「現地の人たちが必要としていることを、スタッフたちと一緒に考えて実行したい！」と強く思っていました。けれど、活動資金を探すのは決して容易ではなく、スタッフたちとあーでもない、こーでもないと言いつつ頭を突き合わせて、なんとか申請書を作成しました。

2015年に味の素AINプログラム（現：味の素ファンデーション）からの支援を得ることが決まり、スタッフと泣いて喜びました。途中

でビザのことで一時帰国を余儀なくされましたが、味の素事業の調整、実施、「AFMET」の今後の活動についての話し合いなど、こうして振り返ってみると、本当にバタバタな7年4か月だったなあ、でも、こんなに充実した7年間はきっともう二度と訪れないだろうなあとも感じています。



ロスパロスの大自然

私の活動場所は、ラウテン県ロスパロス準郡で、首都ディリからは公共バスを利用すると9時間、団体の所有車を使うと約6時間かかります。距離は220キロとそんなに遠くないのですが、道はボコボコでこれくらいの時間がないと到着しません。ディリに滞在している日本人の方々には「なんでそんな田舎に7年もいられたの？」と問われます。理由は3つ、まずはやっぱり大自然！高い建物がまったくないので、空が高く広く感じます。動物もたくさんいて、自然や大地の素晴らしさを実感することができます。それから、気候がよいこと。ディリより少し標高が高いので、過ごしやすい。それから、やっぱりロスパロス人特有の人懐こさ！これが最大の理由かもしれません。

ある人に「ゆいさんはすべてを笑いにかえる力がありますね」と言ってもらった事があります。7年間で本当にいろんなことがあって、嫌

なことやツライこともたくさん、挙げだしたらキリがないほど。でもそんなとき、あハハと笑ってみると、見え方違ってきたり。1人が笑うと皆も笑い出して、笑顔になれます。これは、日本に帰ってからも、続けていこうと思っています。



事業受益者との会議の様子



お世話になった AFMET スタッフたちと

2018年4月9日、今30歳の私は、東ティモールが大好きで、最後まで頑張った自分に「がんばったね」と素直に言えるようになりました。これからもきっと、ずっと、東ティモールのことは忘れません。共に笑い、時に喧嘩し、共に過ごした貴重な日々。歴史も文化も、何もかもが違う東ティモールで、現地の人々と家族のように繋がり、成長させてもらい、助けてもらい、なによりも、共に生きてもらいました。いつもあったかくて、一緒に泣いてくれて、話を聞いてくれて、支えてくれて。かけがえのない7年4か月。これまで出会ったすべての東ティモール人に、心からの感謝を！！

## カンボジア ◆コンポンルアン◆ 学校と浄水装置の改修工事

JLMM (信徒宣教会) 井 手 司

今年も「海外宣教者を支援する会」様からご支援をいただき、学校と浄水装置の改修工事を行なう事が出来ました。学校は、建物が浮くために必要な竹を支える木材の補修と、建物が流されないために必要なロープの購入を行いました。まず、水上村の建物は、大きな木の箱、約800本の竹、ドラム缶で浮く事が出来ています。そして今回は、竹を支える木材の補修を行いました。以前にもお伝えしましたが、トンレサップ湖は時期に応じて湖の大きさが変化するため、水位に合わせて引越しを行います。そして引越しの際に、湖に浮いているゴミなどが建物にぶつかることによって建物が傷つきます。そのため学校の竹を支える木材も痛みが目立つようになってきました。木材の補修は2日間で終わりました。今の時期は湖の水深が1m以下なので、湖の中に入り作業をしました。



補修工事の様子

水上村の建物は流されないように、碇とロープを使って固定します。ロープは常に水に浸かっているうえ、ボートのスクリュー等が絡



まったりして損傷します。碇は大きいものは40kg、そのため定期的な交換が必要です。



建物が流されないために多くの碇とロープが必要

また、浄水プログラムは2007年に始めたプロジェクトで10年が経過しました。現在では、雨の降らない乾季の時期は、一日に5000～6000lの水が売られています。そして浄水装置が出来て10年が経過して、多くの箇所では修繕が必要になって来ています。浄水装置を管理しているバトゥーおばさんが、建物や設備などの修理が必要な場合は、水の売り上げを蓄えておき、修理に充てています。しかし最近では修理箇所が増えてきて、売り上げの蓄えだけでは、困難になりました。そのため今回は、建物を支える200本の竹の交換と、水を貯めるタンクの購入をすることになりました。竹の交換後は、波による建物の揺れが小さくなりました。私が水上村に滞在中は、バトゥーおばさんにご飯を作ってもらい、浄水装置の建物で、バトゥーおばさんと一緒に食べています。竹の交換前は、食事中も建物の大きな揺れを感じていました。次にタンクの購入は、浄水装置で一番高い場所にあるタンクの交換です。タンクの上部や排水口付近に亀裂が入り、水が漏れるようになったので、新しく購入する事にしました。

私が水上村での活動を始めて、間もなく4年が経過します。そして毎年、教会や学校の建物の補修を行なっています。建物はそれぞれ10



年以上経っていますので、補修箇所も増えてきます。床や扉等の低予算ですぐに修理できる箇所は、その都度修理できても、大規模な修理を行う時は、神父様、教会委員会のメンバー、先生達と話し合い、優先順位を決めていきます。特に、建物が水に浮いているため、水に浸かっている土台部分の修理は毎年欠かすことが出来ません。今回の修理に関する会議の中で、教会委員会のメンバーは「私たちが水上に住んでいるため、家の土台部分の竹等の耐久年数は分かっている。しかし教会や学校は建物が大きい。想像以上に竹などの土台部分への負担が大きい。そして建物が出来て10年が経過して、想像以上に建物の土台部分の損傷がひどい。そのため今後も毎年修理が必要かもしれない」と言いました。すると神父様は「修理を必要とする事はとても重要なことだが、大規模な修理を行う場合は、当然予算が必要です。しかしすぐに予算を確保するのは難しいので、定期的に会議を行う事で、修理が必要な場所やいつまでに修理が必要か、どのくらいの予算が必要かを常に把握しておくことで、より良い状態で建物を維持する事が出来る」と言われました。より良い状態で建物を維持していくためにも、教会委員会のメンバーや先生達とのコミュニケーションを今まで以上に良くしていきたいと思えます。

■ こんにちは！ ■ お久しぶりです！！ ■

## 事務局訪問の宣教者

4月10日 ————— ドイツ

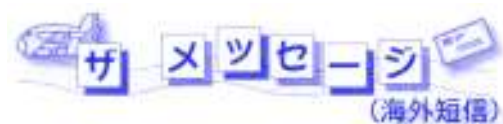


聖パウロ女子修道会

Sr. 比護キクエ

ドイツ、デュッセルドルフ  
で私たちは宗教のものを中心  
に、本屋さんを経営していま

す。きれいに本を並べて整理しています。ドイツでも若い人のカトリック離れが増えておりなかなか大変。ドイツの人たちはそろばんに興味津々のようです。今回、事務局を訪問できてよかったですと思いますこれからもお祈りください。



### ▲ハイチ

レデンプトリスチン修道院 飯村美紀子

何時も大変にお世話になっております。お送りくださいました新年のご挨拶、「きずな 141号」は3月10日に無事に届きました。ありがとうございます。こちらに派遣されて42年目を迎えました。5月20日の聖霊降臨の祝日を祝いますが、この日は私共の修道会の創立記念日にも当たり、二重のお祝い日となりました。皆様方の愛のこもるお祈りのお蔭であることと深く感謝申し上げます。

### ▲ボリビア サンタクルス

サレジアン・シスターズ 漢那和子

サンタ・クルスはこの数日肌寒く、暑がりの私にとって気持ちのいいが続いています。「カトリック生活」12、1、2月号など3月24日に受け取りました。ありがとうございます。いつも楽しみに読ませていただいております。「心のともしび」は小さい時からのファンで、お母さんたちにお話をするとき参考にさせてい

ただいております。

### ▲インドネシア バンドン

聖心会 足立万利子

いつも「きずな」をお送りくださりありがとうございます。皆さんすごい宣教地へ行っているなと感心しています。こちらに来て丁度1年になりました。裾野の不二聖心（静岡県）での生活が長かったので（29年）、ここバンドンは私にとって大都会です。まだまだ言葉は不自由ですが、若いシスターたちに家庭科（こちらの学校教育には家庭科はない）と折り紙を教えています。

### ▲ブラジル サンパウロ

イエスのカリタス修道女会 赤塚・黒崎・白沢

こちらは、大地の恵みを感謝すると共に雨のお恵みを祈りながら、人々とロザリオの祈りを大切にしましょうと！と、励まし合っています。いつも変わらぬ愛のご支援をいただき、クリスマスカード、きずな、カトリック生活などお送りくださりありがとうございます。宣教にも役立たせていただいております。こちらのシスター一同感謝の念でいっぱいです。

## 悲しいお知らせ

当会設立当時からご尽力くださった吉岡道子さんが3月23日、86歳でご帰天されました。長年にわたり運営委員として活動してくださり、心から感謝しております。



### 吉岡道子さんの思い出

- 吉岡さん、あなたは当初からいろいろな仕事を心を込めてしてくださいましたね。そのお姿が目に浮かびます。美しい文字で書いてくださる会費の領収書に添えられるひと言を、心待ちにしている方達がいらっしまいました。これからも支援する会を見守ってくださいね。
- 初めてお会いしたのは40年ほど前、故樋口百合子様宅の聖書の勉強会でした。その後「きずな」の発送で一緒になり、会費の領収書の発行のお手伝いをするようになりました。言葉の端々に「良妻賢母」が感じられる方でした。ご冥福をお祈りいたします。
- 1988年の運営委員会で「会計担当」と紹介された吉岡さんは、品のよい物静かな方という印象でした。以来30年近く共に仕事をさせていただきました。「きずな」も現在とは違って時間と労力がかかる作業でした。「ご寄付くださる方があるから、海外の神父様やシスターのお役に立てるのよね」が口癖で、黙々と丁寧にお仕事に取り組み、常に静かで誠実でした。すでに帰天なされた梶川神父様、ローシャイタ神父様、運営委員の諸先輩方と主に「支援する会」の活動を見守ってください。

## 事務局よりお願い

- \* 2017年度の切手等によるご寄付は¥246,680でした。ありがとうございます。引き続きご協力をお願いいたします。
- \* 海外宣教者名簿を更新しますので2015年以降新しく宣教者を派遣されました会は一報頂けましたら幸いです。
- \* 事務局の夏休みは8月10日(金)～15日(水)です。
- \* 10月27日「宣教者のお話を聞く会」を開催いたします。今回は東京教区の菊地大司教様にお話を伺います。詳しくは9月のきずなに発表いたします。



## 新入会員 (敬称略)

個人会員 4名

森山 信三 (福岡県福岡市)

B・レミ (埼玉県所沢市)

堤 俊 (東京都大田区)

武藤 功哉 (東京都世田谷区)

### 編集者からのお願い

海外宣教者の皆様、いつも宣教地での出来事や人々の生活、活動のご報告などお送りくださりましてありがとうございます。楽しみに読ませていただいておりますが、最近お便りがめっきり少なくなったように感じます。大きなプロジェクトの報告でなくても結構です。日常の小さな出来事や現地の人々とのかわりなど、短い文章で、できれば写真を添えて送信してください。楽しみにしております。

また、国内の会員の皆様、お便りを読んだ感想や「きずな」へのご要望などもお聞かせください。お待ちしております。 諏訪なほみ



発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会  
会長 M. マタタ

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112

日本カトリック海外宣教者を支援する会

・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会